内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2003年10月）

◎10月の事務総局長の主な動向

10月12～18日　世界テレコム2003

10月12日（日）から18日（土）の7日間、ジュネーブのパレエクスポで世界テレコム2003が開催されました。12日の開会式にはスペイン国王を招き、各国要人の見守る中、厳かな雰囲気での開会となりました。

前回のテレコム開催年である1999年からは情報通信分野のマーケットを取り巻く状況は大きく様変わりしました。テレコムへの出展企業もこうしたマーケットの変化を非常に敏感に反映しますし、今後もこうした変化が続くことでしょう。今回のテレコム2003には欧州の大企業を中心に出展企業が出展を取りやめたものの、日本企業各社をはじめ、シスコ、HP、インテル、マイクロソフト、クァルコム、ブリティッシュテレコム、サムソンなど世界51カ国から911社の出展があり、情報通信関連企業375社のCEOと148名の大臣等が出席しました。また、報道関係では、300余りの放送メディアを含む1,500を超えるジャーナリストが集まりました。開催期間中は毎日約15,000人の入場者が会場を訪れ、開催期間中を通した延べ入場者数は10万人を超えました。展示で目を引いたのは、日本、韓国や中国から出展されていたモバイル通信のアプリケーションとブロードバンドの利活用のデモンストレーションでした。会場全体が比較的静かな雰囲気である中、日本のコーナーだけは常時多くの人だかりができ、展示とデモに見入っていました。

テレコム・フォーラムの最終日には、WSISのセッションを設けていましたが、多くの聴衆の参加を得ましたところ、産業界、学術界、市民団体、メディアからの関心が高まってきており、WSISでの各国の積極的な参画と今後の具体的な行動に期待をしています。今後も日本をはじめとする加盟各国からの支持を得て、ITUは情報社会のリーディングロールを演じてまいります。

1971年以来、ITU世界テレコムは産業界のCEOと政府大臣等との議論のプラットフォームを提供してきました。次のテレコムイベントは来年5月4日から8日にカイロで開催するテレコムアフリカ2004、そして、9月7日から11日に韓国の釜山で開催するテレコムアジア2004です。

10月10日　久保純子WSIS親善大使との会談

世界テレコム2003開催期間中、約30名の大臣や多くの経営者と会談し、WSIS開催を目前にWSISの成功に向けた意見交換などを行いました。わが国からは久保純子WSIS親善大使の来訪を受け、ITUの演じる主要な活動や役割などについて意見を交換し、WSISについてのわが国国内における積極的な広報活動をお願いしました。

10月30～31日　WSIS開催に向けた非公式会合

9月のWSIS準備第3回会合では、WSISで採択する『宣言』および『行動計画』の案文をまとめるべく議論いたしましたが、慎重な議論を要する項目が多かったことから継続審議という結果になり、11月10日から14日にかけて再度準備会合を開催することになりました。

今回の非公式会合は、11月10日からの準備会合の議論を円滑にするために、各論点における各国政府の見解を探り、「宣言」案文を適切な表現にしようとする議論が行われました。各国とも「宣言」案をまとめようとする意思が見えてきましたので、今後、議論が進むことを期待しています。

10月27～29日　追加理事会

10月27日（月）から29日（水）の3日間、追加理事会を開催し、春の理事会で積み残しとなった2004-05年のITU予算案の審議を行いました。ITUの効率的な運営のためのコスト削減とスタッフ削減についての議論や、WSIS開催に向けた予算措置、今後のITU活動に関する外部コンサルタント、公用6言語の公平な取り扱いについての活発な議論が展開されました。事務局としては、各理事国から出される質問に逐一的確に応答し、議事の進行に努めました。

3日間という限られた時間の中での議論であり、各国から出される意見間の妥協点を見いだすことに幾つかの困難がありましたが、春以降、理事会が設置したオーバーサイトグループ（COG：10カ国で構成）と幾度となく事前調整を行い、また主要国在ジュネーブ代表部にも事前調整を行ってきたこともあり、各国の努力と議長の采配により、すべての議論をまとめることができました。

久保純子WSIS親善大使との対談模様